

点眼薬を使用する際にどのような点に注意すればよいですか？

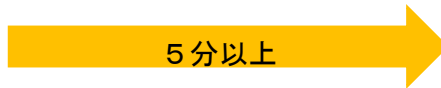
《点眼方法》

- ①点眼前に石鹸などで十分に手を洗う：手指を介した汚染が最も多い。
- ②点眼しようとする点眼薬が間違いのないことを容器やラベルに記載の商品名、キャップの色を確認する：点眼薬に類似した水虫薬等の誤用を避けるためにも重要!!複数点眼する際は各点眼薬の点眼回数も確認する。
- ③頭を後方に傾けて上方を見上げ、点眼する目の下まぶたを引き1滴点眼する：点眼用器の先端を手で触らない。また先端を睫毛や瞼、結膜に触れさせない。容器内の汚染の原因になる。
- ④点眼後は閉瞼し、涙嚢部を1～5分間圧迫する：結膜嚢内に点眼液が滞留する時間が長くなり、点眼薬の効果が安定する。涙道から点眼液が流出するのを防止することで全身性の副作用を最小限にすることができる。点眼後のまばたきは繰り返し行わない。あふれ出た点眼液はふき取り、皮膚炎や睫毛異常などの点眼役による有害事象を防止する。



《点眼間隔》

2種以上の点眼薬を用いる場合には、**少なくとも5分以上の間隔を置いて点眼する**(持続性・油性のように結膜嚢内に長く滞留する場合はもう少し時間を置く)。間隔が短いと、2剤目の点眼薬で1剤目の点眼薬を洗い流してしまう。結膜嚢内の涙液量は約7 μ Lで、通常1.2 μ L/分で涙液が産生されており、結膜嚢の涙液が完全に置き換わるのに約5分かかると計算されている。5分以上間隔をあげることで、点眼薬の相互作用はほとんどなくなると考えられている。



点眼薬は一度に何滴させばよい？

目の洗浄目的でない限り、**1回1滴で十分とされています**。点眼液の1滴の容量は約30～50 μ Lです。結膜嚢の最大の保持能力は約30 μ L、涙液量は約7 μ Lとされており、余分な点眼液は涙道に流れ出すか、眼外にあふれ出す計算になります。

ただし、1回1～2滴や、2滴以上の用法用量のものもあるので、使用する際は添付文書等を確認する必要があります。

点眼薬の使用期限は？

1本5mLの医療用点眼薬は、中身の点眼液の汚染などを考慮して**約1か月が使用期限**と考えられています。1日2回の点眼液であれば、1か月以内に点眼液が消費される計算になります。点眼液の使用の仕方によっては汚染がもっと早く進行する可能性があるため、正しい使用方法の遵守とともに、点眼液の変色や混濁などに注意が必要です。